

幼保小の架け橋プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

第3回「探究心を育む『遊び』研究会」報告会が開催されました！

今年も報告会は明るく広々とした市庁舎アトリウムで行われました。発表者、参観者を合わせて600名を超えるたくさんの方が来場され、賑わいのある1日となりました。午前と午後の2回、参加した32施設が8つのブースに分かれ、順番に活動の報告をしました。

実際に活動に参加していたお子さんが、保護者の方と一緒に参観する姿もあり、担任の先生の報告を熱心に、またうれしそうに見ている姿でも微笑ましかったです。

どの実践でも子どもの素敵な笑顔がたくさん紹介され、それを伝える教師・保育士の表情も生き生きとしていました。参観された方の感想からも、

「どの発表にも子どもへの愛があふれていて素敵でした。」

「やっぱり保育はワクワク！子どもの力と大人の力の可能性を感じました」

「先生方の情熱や、子ども一人ひとりの思いを大切に育てくださっている心、それぞれの取組の素敵さに感動しました。」

など、発表からたくさんの力をもらったという声がありました。

「遊び研究会」は今回で終了となりますが、今後も遊びの大切さやその可能性について実践を通して確かめ合い、幼保小、また保護者や地域の方も含め、立場を超えて共有する場をもつことができたらと願っています。



★ 横浜市長賞



横浜市中屋敷保育園

「おてて絵本から広がっていく空想の世界」

★ こども青少年局長賞

横浜市原宿保育園

「諸感覚を使った経験を重ねることで、豊かな感性を育む」

関東学院のびのびのば園

「やりたい！どうやったらできる？を研究する」



★ 第一生命横浜総合支社長賞

本郷特別支援学校

「響き合う虹色の子どもたちと遊びの世界」

つくし保育園上大岡

「『やってみよう』を思い切り楽しむ!!」



★ 審査員特別賞

横浜市桂台保育園

「遊びながらいとどりの気持ちを豊かにする」



この「遊び研究会」は「幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋プログラム」の取組として行ってきました。幼児期には、子どもがやりたい意欲をもって仲間とともに遊び込む姿に「学びの芽生え」を見ることができます。小学校では、その芽生えを知り、幼児期からの発展としての自覚的で探究的な学びとしていくことが大切です。

3回目を迎えた今回、小学校からは「園での育ちを知り、それをどのように生かそうとしたか」についての研究報告が多く、架け橋プログラムの取組の広がりが感じられました。